令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【いろどり学園小学部】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	・主体的に学習を調整する力（自律的な学び）：自分の興味・関心に基づいて課題を選択し、自らのペースで学習を進める力 ・探究的・創造的な思考力：先端技術や教科横断的な視点を活用し、自ら問いを見付け、多面的に考えて解決していく力 ・自己肯定感とレジリエンス（精神的回復力）：自分の強みを認め、困難に立ち向かったり、心身の健康を保ったりしながら社会とつながる力。
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	①個別最適な学びの充実（学習の個性化） ・いろどりタイムの実施：自分の好きなことや興味に夢中になれる時間の設定、自律的な学びを支援 【時期・頻度】毎週火曜日 ② 教科横断的・探究的な学び（未来工房） ・STEAM（ステム）の展開：音楽、図工・美術、体育、家庭・技術を複合した学習を通し、知識を総合的に活用する力を養う。 【時期・頻度】毎週木曜日に実施 ・いろどりLAB（ラボ）の先端技術活用：3Dプリンターやドローン等を用いた探究活動を行い、創造的思考を養う。 【時期・頻度】毎週火曜日に実施

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語：話すこと・聞くことに比べ「読むこと」や「書くこと」、特に条件作文等の記述式問題や文脈に応じた知識・技能（漢字表記等）で課題が見られた。 算数：測定に比べ「データの活用」「変化と関係」「図形」で課題が見られた。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	・他者の意見を否定しない温かい雰囲気と高い心理的安全性があり、ICT端末を用いた情報発信や意見共有への抵抗感が低い。 ・解き方が分からない問題に試行錯誤し粘り強く取り組む姿勢が不足している。また、理解した内容を筋道立てて文章や数値を用いてで説明するなど自分の考えを表現する力の向上が求められる。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	UDLに基づいた授業構成や資料事前提示が定着し、安心して参加できる学習環境が整っている。一方で、自分の考えを文章や言葉で表現する指導や、データをもとに意見を構築し共有する学習活動について、校内で指導方法を共有しながら、さらなる充実を図っていく。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	（変更なし） 今後、「個別思考（UDL環境）→ 協働的共有（チャット・対話）→ 個の再構築（振り返り）」の学習プロセスを校内で標準化する。朝の「いろどりサポートタイム」やAIドリル等で知識・技能の定着を図りつつ、「間違えても大丈夫」という安心感を記述問題への挑戦する姿勢の育成に繋げる。	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）